

「食に関するアンケート」結果と考察

【朝食について】

- 問 2 朝食を時々食べないことがある児童もいるが、ほぼ全員の児童が食べている。
毎日朝食を食べている児童は95%である。これは、前年度より3%増加の値である。
- 問 3 朝食を時々食べないことがある児童は、「時間がない」「食欲がない」ことを理由にあげている。
- 問 4 92%の児童が朝食を家族の誰かと食べている一方で、8%の児童は1人で食べている。

【夕食について】

- 問 5 ほぼ全員の児童が毎日夕食を食べている。
- 問 6 夕食を1人で食べている児童が、前年度の調査では全校児童の7%（9人）いたが、今年度は0人であった

【朝食と夕食の時刻について】

- 問 7 朝食も夕食も7割の子供が、ほとんど決まった時間に食べている。

【家庭での食事マナーについて】

- 問 8 「食事のあいさつをする」と答えている児童が、前年度は98%であった。ほとんどの児童は挨拶が習慣化している。
- 問 12 「テーブルに肘を突いて食べることがある」と答えている児童が47%いる。

【家庭での食事づくりや片付けについて】

- 問 9 4割の児童は食事づくりや片付けをよく手伝っており、時々手伝っている児童を含めると9割が手伝っている。

【まとめ】

○日常から、食事づくりや片付けの手伝いをしている家庭では、児童が食に関して興味を持ちやすいと推測される。例えば、家庭科の調理実習で実施した内容を家庭で再現することを、宿題として取り組んだことから、食文化に関して家庭内で考える機会となった。

○食事マナーの大切さを、我が子の事として捉えられるよう保護者に働きかけ、家庭を巻き込んだ指導が必要である。家庭に向けて「給食便り」に食事のマナーについての掲載をしたり、保護者会等において話題にしたりして啓発をしている。学校では、給食指導の中で食事のマナーを、引き続き指導していきたい。